



【事例 2】 旭市・匝瑳市：川口資源保全会

1. 組織の概要

| 認定(協定締結)年度 | 認定面積(ha) | 構成員 | 集落数 |
|------------|---------------------------|---------------------------|-----|
| 平成 19 年度 | 140ha (田:109ha 畑:31ha) | 農業者 136 名、地域住民 182 名、7 団体 | 10 |

2. 地区の概要

旭市と匝瑳市の境に位置する川口工区を中心とし、県内でも数少ない 2 つの市をまたいだ活動組織となっています。県営地域用水環境整備事業で整備された川口沼が地域のシンボルとなっており、広大な耕地の広がる地域です。

3. 合意形成の経緯と組織の運営

本対策は、平成 18 年度に実験事業が実施されていますが、川口地区は当時、県営ほ場整備事業の実施中であったことから、大利根土地改良区より説明があり、本格的な事業化に先駆けて平成 18 年度の実験事業から取り組んでいます。工区役員を中心に、集落の役員も加えた活動組織の役員構成となっており、実験事業の段階から、一般市民も一緒に活動を行っています。

今後は、集落の役員は 2 年交代、工区役員は 5 年間ということとなっているため、業務の引き継ぎが課題となっています。

4. 特徴的な活動について

(1) 子ども会との連携とあやめの植栽

地域の自然や環境を守り、将来に渡って引き継ぐためには、子どもの頃からの啓発活動が大切であると考え、対策の開始とともに子ども会を立ち上げています。子ども会を対象に毎年生き物調査を実施するとともに外来種(ブルーギル)の駆除を兼ねた釣り大会を実施しています。



生き物調査の実施



あやめを植栽する様子

また、川口沼において地元のあやめ育種家である高野先生の指導の下、豊畑小学校の川口地区の 5~6 年生の皆さんによってあやめの植栽を実施。管理・除草など、先生の懇切な教えに従って進めてきました。その甲斐あって 10 年後にはすばらしいあやめ園として皆さんに楽しんで頂けるまでに成長しました。



植栽1年後の苗木状況



植栽から10年後、川口沼に咲き誇るあやめ

(2) 川口沼での活動

川口沼については、家庭雑排水が流入することは少ないため、水質は良好であるものの、藻などの除去作業は欠かせません。また、景観形成の一環として平成19年度に子ども会と連携したあやめの植栽（前項目参照）を実施し、今では地域の観光名所となっています。

沼の周辺は、組織の構成員である川口沼釣愛好会の皆さんが、毎日自主的にゴミ拾いを行うなど、自然に役割分担が出来ており、本対策の趣旨が浸透しています。

(3) 積極的な啓発活動

当保全会では組織の活動について理解を深めて頂くために視察研修を積極的に受け入れています。

また、川口沼の環境保全のため看板を設置しています。



保全会設置の啓発看板

5. 今後の活動について

現状は、集落が一体となって取り組んでおり、今後も共同活動が継続できる地域であると考えています。しかし、他地区同様、後継者不足などの将来的な組織体制に対する不安が今後の課題です。市内の他組織と広域化することで問題解決が図れるよう、実施組織への視察等をとおして知識を深めていきたいと考えています。



匝瑳地区での役員による泥上げ作業